

CHESS Magazine

#24

February 2026
japanchess.org

Interview

平塚義啓さん

[Next Generation]

森谷翔さん

[海外遠征記]

FM 大塚翔生

Elizabeth Ivanov

菊池薫

The 2025 XTX
Markets London
Chess Classic

First Saturday /
Forintos Gyozo
Memorial
Tournament
2025

FIDE World Rapid &
Blitz Chess
Championships 2025

Asian Youth Chess
Championships 2025

2025

✈️ 海外遠征特集

FIDE World Rapid & Blitz Chess Championships 2025



Japan
Chess
Federation

IM Tran Thanh Tu

海外遠征特集

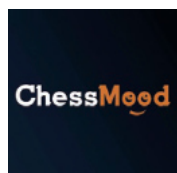
- ♥ 03 **FIDE World Rapid & Blitz Chess Championships 2025**
IM Tran Thanh Tu
- ♥ 13 **2025年末チェス遠征記** FM 大塚翔生
- ♥ 19 **2025 XTX Markets London Chess Classic Super Rapidplay**
Elizabeth Ivanov
- ♥ 20 **Asian Youth Chess Championships 2025**
菊池薫

Interview

- ♥ 22 **平塚義啓さん**
- ♥ 25 **森谷翔さん**
- ♥ 27 **チェス大会inアメリカ NO. 87** 上杉賀子

New!

記事を気に入っていただけるときは、ページ番号横の ♥ ボタンを押してください (複数選択可)。今後のCHESS Magazine制作の参考とさせていただきます。





World Rapid & Blitz 2025 — ドーハと特別な大会の空気 Tran Thanh Tu

2025年の年末、日本の街がクリスマススムードに包まれるなか、私はカタールのドーハへ向かいました。目的は FIDE World Rapid & Blitz Championship 2025 に出場するためです。

この大会は、世界のチェス界において一年のなかでも特別な位置づけを持つイベントの一つです。わずか5日間の間に、選手たちは30局以上を戦うことになり、スケジュールは非常に過密で、実質的にまとまった休息の時間はほとんどありません。具体的には、RapidセクションはOpenが13局、Womenが11局で、持ち時間は15分+10秒です。BlitzセクションはOpenが19局、Womenが15局で、持ち時間は3分+2秒です。Blitzにはさらに予選終了後、上位4名が準決勝・決勝に進み、息の詰まる戦いが繰り広げられます。

クラシカルチェスと比べると、RapidとBlitzはまったく異なる「別の世界」です。オープニングの知識や計算力だけでなく、瞬時の判断力、そして局と局の間で気持ちを切り替える回復力が強く求められます。ほんの小さなミスが、そのまま1局の敗北につながることも珍しくありません。

自宅から現地ホテルまで、ドア・トゥ・ドアで24時間以上をかけてドーハに到着しました。期待と同時に、慎重な気持ちもありまし





た。今回がこの大会への初出場であり、おそらく日本代表として参加するのも初めてだったと思います。RapidやBlitzは、もともと私の得意分野だと考えていました。比較的計算が速く、決断も早いタイプだからです。しかし日本では、RapidやBlitzの大会自体が多くなく、毎年本格的に腕を磨ける機会といえばJapan Rapid Championshipくらいしかありません。

スターティング・ランクも、決して自信を持てるものではありませんでした。Rapidセクションでは、247人中ちょうど200位という、ほぼ下位からのスタートでした。ランキング上位には、カールセン、ネポムニャシチー、MVLといった世界のトッププレイヤーが並び、2700~2800台のGMがずらりと名を連ねていました。現世界チャンピオンのグケシュですら、シード順位は16位でした。このような大会では、1局の敗北を引きずる時間も、勝利を噛みしめる余裕もありません。すべてが非常に速いテンポで進み、常に順応し続けることが求められます。

参加人数が非常に多いため、選手たちは複数のホテルに分かれて滞在していましたが、私の宿泊先にも多くの強豪GMがいました。毎日の食事の時間、周囲を見渡せば手強い相手ばかりで、「もっと頑張らなければならない」と自然に気持ちが引き締まりました。私は自分に対して、やや野心的な目標を設定しました。賞金圏であるトップ35入り、もしそれが叶わなくても、最低でもトップ100には入り

たい、という目標です。

なお、本大会への参加にあたっては、日本チェス連盟より出場関連費用への補助を受け、その支援のもと、世界最高峰の舞台に臨むことができました。

では、実際の戦いはどうだったのでしょうか。

Rapid — Day 1

2025年12月26日、ついにRapid初日の戦いが始まりました。当日の朝、ホテルはとても静かでした。かなり早い時間に朝食会場へ向かいましたが、見かけたのは顔なじみの数名だけ。多くのチェスプレイヤーが朝はゆっくり過ごすことを考えれば、自然な光景だったと思います。朝食は十分に整っており、これから始まる長い一日に向けて、しっかりとエネルギーを補給できました。

会場行きのシャトルバスは12時30分発の予定でしたが、実際には出発までかなり待つことになりました。早めに行動したかったこともあり、少し慌ただしいスタートです。私は昼食をゆっくり取る時間がなく、軽く食事を済ませてそのままバスに乗り込みました。車内では、アフリカ大陸で初めてレーティング2700を超えたGMバセム・アミンと隣り合わせになりました。

会場到着後もしばらく外で待機し、ようやく中へ入場。携帯電話の預け入れやセキュリティチェックは複数段階で行われており、やや厳重な印象を受けました。会場内は全体として良好な環境で、観

客席も用意されており、大会らしい雰囲気を整っていました。

各ラウンド終了後、選手たちは上階にあるプレーヤーラウンジに集まります。ここには飲み物や軽食が用意されており、後半にはケバブなどの温かい食事も提供されていました。選手たちはこの場所で食事をとり、次の対局に向けて気持ちを切り替えます。

初日の進行は想定よりも長引きました。18時開始予定だった第4ラウンドを前に、18時近くになってもまだ第3ラウンドが終わっていない状況でした。テンポが乱れるなかで、長時間にわたって集中力を維持することの難しさを、改めて実感しました。

内容面では、残念ながら満足はいく一日とは言えませんでした。特に黒番の対局では、自分の指し手が噛み合わず、オープニングで相手に主導権を握られる展開が続きました。3局連続で黒番を落としたことで、「安全に指すだけでは状況は変わらない。何かを変える必要がある」と強く感じるようになりました。

この日の成績は5局を終えて2勝3敗、対戦相手はGM3名、IM2名でした。2勝はいずれも白番での勝利で、3敗はいずれも黒番でした。明らかに満足できる結果ではありません。その2勝のうちの1局は、GMニアズ・ムルシェドに対する勝利でした。実は彼とは、2020年のAsian Nations Online Cupで一度対戦しており、その際は勝勢から痛恨のミスでスタイルメイトに持ち込まれ、引き分けに終わった苦い





記憶があります。

Rapid — Day 2

Rapid第2日の対局は、午後2時から始まりました。初日を思うような形で終わられなかったこともあり、このDay 2が今大会の流れを左右する重要な一日になることは、はっきりと意識していました。

第6局では、事前にジョバヴァ・ロンドンを想定して準備をしていました。対局前、私はこのオープニングの考案者であるGMバドゥール・ジョバヴァ本人の席へ行き、挨拶を交わしました。対局は非常によい形で進み、狙い通りの展開から納得のいく内容で勝利を収めることができました。盤面の流れ、判断の感触ともに噛み合い、久しぶりに「自分らしいチェス」が指せた1局だったと思います。この勝利によって、気持ちの面でも大きく立て直すことができました。

Tran, Thanh Tu (2364)

Drygalov, Sergey (2489) [D00]

FIDE World Rapid Championship
2025 Doha (6)

Rapport-Jobava System D01

**1.d4 Nf6 2.Nc3 d5 3.Bf4 a6 4.e3 e6
5.h4 c5 6.g4 Qb6 7.g5 Qxb2 8.Nge2
Nfd7 9.Rb1 Qa3 10.Bg2 Nc6**



白はポーンを1つサクリファイスする代わりに、非常に速い駒の展開とキングサイドでの広いスペースを得ています。一方で黒はまだ十分に展開できておらず、クイーンがa3で浮いた状態になっています。

11.Bc7

形としては少し不思議に見える1手ですが、Rb3によってクイーンを捕獲する脅威を作っています。

11.e4 さらに強力で、より直接的です。 11...cxd4 (11...dxe4 12.d5 exd5 13.Nxd5 Qa5+ 14.Nec3 Nde5 15.0-0+) 12.exd5 exd5 13.Nxd5 Bd6 14.Bxd6 Qxd6 15.Nxd4 0-0 16.Nxc6 Qe6+ 17.Qe2 Qxe2+ 18.Kxe2 bxc6 19.Ne7+ Kh8 20.Rhe1+-

11...c4 12.e4 Bb4 13.Rh3

このルークリフトは、防御と攻撃を同時に兼ねています。

**13...Ba5 14.Bxa5 Qxa5 15.exd5
exd5 16.Re3+ Kf8 17.Nf4 g6
18.Bxd5 Nb6 19.Qf3 Nxd5
20.Nfxd5 Bf5 21.Rxb7 Kg7 22.h5
Rh8 23.h6+ Kh8 24.Qf4 Rad8**



黒は何とか人工的なキャスリングに成功し、キングを隅へ逃がしました。しかし、その周囲の黒マスは非常に弱く、白はクイーンを侵入させてチェックメイトを狙う構想を持つことができます。そのため白は、要所であるe5を守っている黒のナイトを排除する必要があります。

25.Ne7

△25.Rc7 Rxd5 26.Rxc6 Kg8
27.Rxa6 Qxa6 28.Nxd5+-

25...Nxd4 26.Kf1

...Nxc2のフォークを回避します。

26...f6 27.Ned5 Ne6

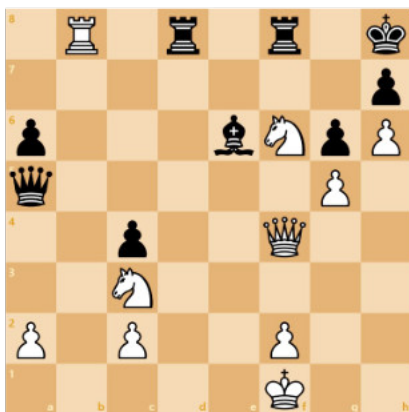
27...Rxd5 28.Rf7! バックランクの弱点を突くことで、f8のルークをf6の防衛から切り離します。(28.Ree7? Bh3+ 29.Kg1 Rxc7 30.Kh2 Ne6 31.Qe4 (31.Rxc7+ Kg8 32.Rbg7+ Nxc7 33.hxc7 Rd8-) 31...Qe5+ 32.Qxe5 fxe5 33.Kxh3 Rf3+ 34.Kh2 Rxf2+ 35.Kh3 Rf3+=) 28...Rfd8 29.Rfe7 Kg8 30.Ne4 Bh3+ 31.Kg1 Rxc7 32.Kh2 Nxf6) に対して、黒には有効な受けがありません。 32...Ne6 33.Nxf6+ Kf8 34.R7xe6 Bxe6





35.Nxh7+ Kg8 36.Nxg5+-

28.Rxe6 Bxe6 29.Nxf6 Rf7 30.Rb8
Rff8



31.Qd4!!

黒はバックランクのメイトがあるためクイーンを取ることができません。そして取らなかった場合でも、白はf6のナイトを動かしてディスカバードチェックをかけ、続いてQg7でチェックメイトとなります。

ります。

31...Bh3+ 32.Ke1
1-0

第7局は黒番で、ギリシャの若手GMとの対戦でした。中盤まではバランスの取れた局面を保っていましたが、一つの判断ミスから不利なエンドゲームに持ち込まれてしまい、そのまま敗戦となりました。内容的にはもう少し粘れたはずの1局で、悔いの残る結果でした。

Alexakis,Dimitris (2501)

Tran,Thanh Tu (2364) [B00]

FIDE World Rapid Championship
2025 Doha (7)

Nimzowitsch Defense B00



18...Qd2

クイーンを活性化し、クイーンサイドの局面を簡略化しにいきます。

19.b3 a5 20.Qxc7 a4 21.c5 Rfc8
22.Qd6 Qb4 23.Rac1 axb3 24.axb3
Ra2?

△24...Ra5= 白はc5のポーンを守ることができません。

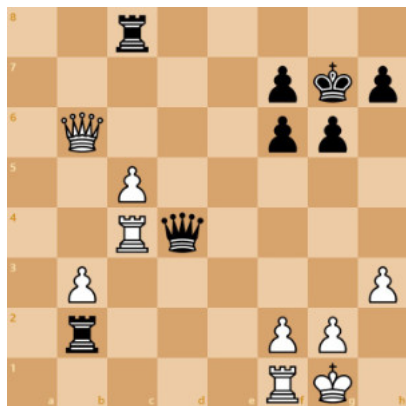




25.Qb6?

25.Qd5+-

25...Qd4 26.Rf1 Rb2 27.Rc4



27...Qxc4??

この交換により、黒は敗勢のエンドゲームに入ります。

27...Qd3= 白はb3のポーンを守ることができず、b3が崩れるとc5のポーンも容易に処理できる状況になります。また、白のf1のルークは守り一辺倒で、b2に配置された黒のルークと比べると、活動性に大きな差があります。28.Rf4 f5 29.Rf3 Qd4 30.Rc1 Qd2 31.Rf1 Qd4=

28.bxc4 Rxb6 29.cxb6 Rxc4 30.Rb1 Rc8 31.b7 Rb8 32.g4

そして白はそのまま勝ち切りましたが、仮にポーンがb7ではなくc7に残っていたら、形勢は引き分けになっていた可能性も十分にありました。

32...f5 33.gxf5 gxf5 34.Rb6 Kf8 35.Kg2 Ke7 36.Kf3 Kd7 37.Kf4 Kc7 38.Rb3 Rxb7 39.Rxb7+ Kxb7 40.Kxf5 Kc6 41.Kf6 Kd5 42.Kxf7 Ke4 43.Kg7 h5 44.Kg6 h4 45.Kg5 Kf3 46.Kxh4 Kxf2 47.Kg5

1-0

第8局は白番で、イタリアランキング1位のGMロレンツォ・ロディチとの対戦でした。彼は直前のワールドカップで、ハンス・ニーマン、マイケル・アダムスを破り、タイブレークの末にサム・セヴィアンに敗れるまで勝ち進んだ、非常に勢いのある選手です。

この対局ではオープニングからよい形で優位を築くことができたのですが、途中でクイーン交換を許し、エンドゲームへ移行しました。ポーンを1つ多く持つ展開ではありましたが、勝ち切るには至らず、結果は引き分けとなりました。

Tran,Thanh Tu (2364)

Lodici,Lorenzo (2499) [A48]

FIDE World Rapid Championship 2025 Doha (8)

Pseudo Queen's Indian Defense A47

1.d4 Nf6 2.Nf3 b6 3.Bf4 Bb7 4.e3 g6 5.h3 Bg7 6.Nbd2 d6 7.c3 Nbd7 8.Be2 0-0 9.0-0 Re8 10.Bh2 Ne4 11.a4 e5 12.a5 Nxd2 13.Nxd2 Rb8 14.axb6 axb6 15.Bf3 d5 16.Ra7 Qc8 17.Qb3 c6



18.e4 exd4 19.exd5 Be5 20.cxd4?

△20.Bxe5 Nxe5 21.cxd4 Nxf3+ 22.Nxf3 cxd5 23.Ne5+- 白のナイトがe5で非常に強力に機能しているのに対し、黒のビショップはb7で活躍の場を失っています。この局面は戦略的に白が勝勢です。

20...Bxh2+ 21.Kxh2 cxd5 22.Bxd5 Qc7+

この1手で、黒はクイーン交換を強制し、守勢ながらも十分に耐えられるエンドゲームに入ります。

23.g3 Bxd5 24.Rxc7 Bxb3 25.Nxb3 Nf6 26.Rd1 Re2 27.Rd2

以下、両者ともに66手まで戦い、最終的に引き分けに終わりました。

27...Rbe8 28.Rcc2 Rxd2 29.Rxd2 Rc8 30.Kg2 Kf8 31.Na1 Nd5 32.Nc2 Ke7 33.Ne3 Nb4 34.d5 Kd6 35.Kf3 b5 36.g4 f6 37.Ke4 Rc1 38.h4 Na6 39.h5 Nc5+ 40.Kf3 Nd7 41.hxg6 hxg6 42.Ke4 Ne5 43.b3 Nd7 44.Ra2 Nc5+ 45.Kf3 Rb1 46.Ra8 Rxb3 47.g5 fxg5 48.Rg8 Nd3 49.Rxg6+ Kc5 50.Rxg5 Rb2 51.d6+ Kc6 52.Nf5 Ne5+ 53.Ke4 Re2+ 54.Ne3 Nf7 55.Rg6 Rxf2 56.Nf5 Rd2 57.Nd4+ Kb6 58.Rf6 Nd8 59.Rf5 Rb2 60.Kd5 Rd2 61.Ke4 Rb2 62.Kd5 Rd2 63.Ke4 Rb2 64.Rxb5+ Rxb5 65.Nxb5 Kxb5 66.d7 Kc6 1/2-1/2

第9局では、GMプラナーシュに対して、非常に早い段階で敗れてしまいました。オープニングでの重大なミスにより、ほとんど修復





不可能な局面に陥ってしまい、自分自身としても納得のいかない負け方でした。

こうしてRapid第2日を終え、私は4人の強豪GMを相手に1.5/4ポイントという成績でした。Rapidレーティングだけを見ると過小評価してしまいがちですが、いずれの対戦相手もクラシカルでは2600前後、あるいはそれ以上の実力者ばかりです。それでも内容次第では2.5ポイントを取れていてもおかしくない一日ただけに、悔しさも残りました。

この時点で、私の目標はより現実的なものになっていました。

少なくとも成績を五分まで戻すこと。

そのためには、次のDay 3で最低でも3勝1敗が必要です。もはや後戻りはできません。戦術的な精度だけでなく、安定感を保ち、序盤のミスが減らすことが何より重要だと、強く感じていました。

Rapid — Day 3

Rapid最終日となるDay 3。ここまでの流れを考えると、何としても巻き返しが必要な一日でした。目標は明確で、まずは流れをつかみ直すこと。その第一歩となったのが、第10局でした。

第10局は黒番で、GMステファンソンとの対戦でした。彼とは2024年のブダペスト・オリンピックで対戦しており、その際は日本代表チームとして歴史的なスコアとなったアイスランド戦（3-1）で、

私自身も勝利を挙げています。個人的にも記憶に残っている相手との再戦でした。

Stefansson,Vignir Vatnar (2463)

Tran,Thanh Tu (2364)

FIDE World Rapid Championship
2025 Doha (10)

East Indian Defense A48

1.d4 Nf6 2.Nf3 g6 3.Nbd2 d6 4.e4 Bg7 5.Bb5+ c6 6.Bd3 0-0 7.0-0 Nbd7 8.Re1 e5 9.c3 Qc7 10.a4 b6 11.h3 Bb7 12.a5 b5 13.b4 a6 14.Nb3 Rfe8 15.dxe5 Nxe5 16.Nxe5 Rxe5 17.Bf4 Ree8 18.Qd2 Rad8 19.Rad1 Qc8 20.Bg5 c5 21.Bc2



21...h6

21...cxb4 22.cxb4 h6 この手順だと、白はh6で取れません。c2のビショップが落ちてしまうからです。23.Be3 Bxe4

22.Bxh6 Bxh6 23.Qxh6 cxb4 24.e5 dxe5 25.Rxd8 Rxd8 26.Qg5?

26.Bxg6 Qc6 27.f3 fxg6 28.Qxg6+ Kf8 29.cxb4 Qd6 30.Nc5 Bc8= 黒はナイト1枚を2ポーンで得ていますが、キングが非常に弱いです。

26...Qxc3 27.Rc1 e4?

27...Qc6! 28.Bxg6 Qxg2+ 29.Qxg2 Bxg2 30.Bxf7+ Kxf7 31.Kxg2 Rd3+ クイーンサイドのポーン・マジオリティが最終的に勝敗を分けません。

28.Bxe4 Qxb3 29.Qxf6??

29.Bxg6 Qd5 30.Bf5+ Kf8 31.Qh6+ Kg8 32.Qg5+=

29...Rd1+ 30.Kh2 Rxc1 31.Bxb7 Qc3 32.Qxa6 Qe5+ 33.g3 b3 34.Qa8+ Kg7 35.a6 b2 36.Be4 Qd4 0-1

この対局は、タクティクスが多く含まれる複雑な展開となりましたが、そのなかで主導権を握り切ることができ、勝利を収めることができました。今大会を通して初めての黒番での勝利であり、連敗が続いていた流れを断ち切る1局でもありました。内容的にも手応えがあり、「まだ戦える」という感覚を取り戻せた対局だったと思います。しかし、その勢いを最後まで維持することはできませんでした。続く対局で立て続けに3連敗を喫し、Rapidセクションは最終的に4.5/13ポイントで終わることになりました。

振り返ってみると、最大の課題はやはり時間管理でした。重要な局面で考えすぎてしまい、持ち時間を過度に消費する場面が多くありました。その結果、終盤や次のゲームに影響が出てしまい、悪循環に陥っていたと思います。Rapidでは試合の間の休憩時間が非常に短く、一つの負けを引きずってし





まうと、そのまま次の対局にも影響してしまいます。精神的な立て直しの難しさを、改めて痛感しました。

こうしてRapidは厳しい結果に終わりましたが、この経験から得た教訓は決して小さくありませんでした。

この反省を、次に控えるBlitzでどう生かすか、それが、次のテーマになっていきます。

Blitz — Day 1

Blitz初日は、インドのGMミトラバとの対局から始まりました。まさに電光石火の展開で、気づいたときには自分の残り時間はわずか10秒しか残っていませんでした。勝てるチャンスがあったにもかかわらず、私はパーペチュアルチェックを選び、引き分けに持ち込みました。Blitzでは一瞬の判断がす

べてであり、この局面でもその厳しさを早々に思い知らされました。

Tran, Thanh Tu (2399)

Mitrabha, Guha (2592)

FIDE World Blitz Championship 2025
Doha (1)

Indian Defense A45

1.d4 Nf6 2.Nc3 c5 3.d5 d6 4.e4 g6
5.Nf3 Bg7 6.Bb5+ Bd7 7.a4 0-0 8.0-0 Bg4 9.Be2 Bxf3 10.Bxf3 Nbd7
11.Be2 Rb8 12.f4 Ne8 13.Bd3 a6
14.a5 Nc7 15.Kh1 b5 16.axb6 Rxb6
17.Qe2 Qb8 18.Ra2 Nb5 19.Nxb5
axb5 20.b3 Rc8 21.Ra5 c4 22.bxc4
bxc4 23.Bxc4 Rb1 24.Rb5 Rxb5
25.Bxb5 Nc5 26.c4 Qc7 27.f5 Rf8
28.Bg5 Be5 29.Bh6 Bg7 30.Bg5
Qa7 31.h3 Bf6 32.Bh6 Ra8 33.fxg6
hxg6 34.Be3 Qa3 35.Qf3 Nd3



36.Bg5 Bxg5 37.Qxf7+ Kh8
38.Qxg6 Bf6??

38...Nf2+ 39.Rxf2 Qc1+ 40.Kh2
Bf4+ 41.g3 Ra1 42.Qe8+ Kg7
43.Qxe7+ Kg8 44.Qe8+= 白にはパー
ペチュアル・チェック以上の手段
はありません。

39.Qh6+ Kg8 40.Qg6+

40.Bd7 すべての駒を戦いに参加
させます。 40...Nc5 41.Bf5+- Qg3
42.Qh7+ Kf8 43.Bg6+-



Photo by Shahid Ahmed.





ペアを持っており、プレーしやすい局面ではありますが、勝利まではまだ距離があります。

20.Bxg7 Rxe1+ 21.Rxe1 Rxe1+ 22.Nxe1 Qxd2 23.Bc3 Qd1 24.Qa1 Qxa1 25.Bxa1

途中でデジタルボードの接続が切れていたため、棋譜は80手までしか残っていませんが、実際には100手近くまで指し続けた末の引き分けでした。

25...Nf4 26.Kf1 Be4 27.f3 Bb7 28.Kf2 f5 29.c4 Kf7 30.Ke3 Ne6 31.Nd3 Ke7 32.h4 Bc8 33.Ne5 Bb7 34.Bc3 Nd8 35.Nd3 Ne6 36.Be5 Kd7 37.Bc3 Bc8 38.Ne5+ Ke7 39.g4 fxc4 40.fxc4 Nd8 41.Kf3 Be6 42.Kf4 Nf7 43.Nc6+ Kd6 44.Na5 c5 45.Nb7+ Ke7 46.cxb5 axb5 47.Nxc5 Bd5 48.Be5 Nd8 49.Ke3 Ne6 50.Nd3 Bxb3 51.Nf2 Bd5 52.Nd1 Bc4 53.Nc3 Nd8 54.Ne4 Ke6 55.Kf4 Nf7 56.Bb8 h5 57.gxh5 gxh5 58.Ng3 Nd8 59.Ba7 Kf6 60.Nxh5+ Kg6 61.Ng3 Ne6+ 62.Kg4 Bb3 63.h5+ Kf6 64.Be3 Bd1+ 65.Kh4 Nc7 66.Bd4+ Kf7 67.Bc3 Nd5 68.Bd2 Nf6 69.Kg5 Bxh5 70.Bc3 Nd5 71.Bd2 Bd1 72.Kf5 Nb6 73.Ke4 Ke6 74.Kd4 Nd7 75.Ne4 Be2 76.Bf4 Bc4 77.Nd2 Nb6 78.Kc5 Nd5 79.Bg5 Bd3 80.Nf3
1/2-1/2

その後、GMタバタバエイ、GMアントン・ギハロ、GMカールティク・ヴェンカタラマンに立て続け

に敗れ、Blitz初日は5.5/13ポイントで終了しました。結果だけを見ると、あまりよい一日とは言えません。多くの対局でオープニングはうまくいっていたものの、ミドルゲームに入ってから判断が不安定で、優勢を手放したり、自ら局面を悪くしてしまう場面が目立ちました。Blitzの厳しさと面白さ、その両方を一気に味わった一日だったと思います。

Blitz — Day 2

Blitz最終日は、正直に言って重いスタートでした。この日も最初の1局を落とし、気持ちはかなり沈みました。対局後もすぐに席を立つ気になれず、そのまま対局会場に残って次のペアリングを待っていました。

結果が出ていない流れのなかでは、「次は少しペアリングが楽になるのではないかと、どこかで期待してしまうものです。そして実際、ラウンド15では、盤上の展開だけを見る限り、こちらが主導権を握れているように感じられました。

Tran,Thanh Tu (2399)

Urkedal,Frode Olav Olsen (2419)

FIDE World Blitz Championship 2025
Doha (15)

Queen's Pawn Game D02

1.d4 Nf6 2.Nf3 d5 3.c3 g6 4.h3 Bg7 5.Bf4 0-0 6.e3 c5 7.Nbd2 Qb6 8.Qb3 c4 9.Qa3 Nc6 10.b3 cxb3 11.axb3 Ne4 12.Nxe4 dxe4 13.Nd2 e5 14.Nc4 Qc7 15.Bh2 Be6 16.Be2

b5 17.Nd2 b4 18.cxb4 Qb7 19.b5 Nxd4 20.exd4 exd4 21.Bc4 d3



22.Rd1??

ピースアップを維持したいという意識が強すぎました。22.0-0 Bxa1 23.Rxa1+- これで十分に勝勢です。

22...e3 23.Nf3?? Bc3+ 24.Rd2 exd2+ 25.Kd1 Bxc4 26.bxc4 Qe4 0-1

対局後、改めて対戦相手を確認して驚きました。相手はGMウルケダル。ノルウェー国内でもトップクラス、国内ランキング6位の強豪でした。

その後の4局では気持ちを切り替え、3勝を挙げる事ができました。

最終的にBlitzの成績は8.5/19ポイント。決して満足のいく結果とは言えませんが、最後に立て直すことができた点は、自分にとって小さくない収穫だったと思います。





振り返って — この舞台で得たもの

RapidとBlitzを通して振り返ると、結果そのものは決して満足のいくものではありませんでした。世界のトップが集う舞台で戦えた喜びがある一方で、「もっとできたはずだ」という思いが強く残っています。

RapidでもBlitzでも、オープニングから中盤にかけてはよい形を作れている対局が多くありました。しかし、考えすぎて時間を使いすぎてしまい、その影響が終盤や次の局面に連鎖してしまう、そんな

悪循環に何度も陥ってしまいました。

短い休憩時間しか与えられない Rapid・Blitzでは、一つの判断ミスや感情の揺れが、すぐ次の1局に影響します。この大会を通して、**精神面の回復力と判断の速さが、いかに重要か**を改めて思い知らされました。

一方で、確かな手応えもありました。2700台のGMを含む多くの強豪と実際に盤を挟み、RapidやBlitzであれば、内容次第で十分に戦えるという感覚を持つことができました。結果以上に、この「感

覚」を持ち帰れたことは、今後に向けて大きな収穫だと感じています。

世界最高峰の舞台で、連日トッププレイヤーと対峙する5日間は、肉体的にも精神的にも過酷でした。しかし同時に、チェスプレイヤーとしての自分を見つめ直す、非常に濃密な時間でもありました。足りないもの、改善すべき点を修正し、これからも出場権を獲得して、この舞台に挑み続けたいと思います。



海外遠征記 2025年末チェス遠征記



大塚翔生

昨年の11月末から12月中旬にかけて欧州を転戦し、London Chess Classic, First Saturday, Forintos Győző Memorialの3大会に出場しました。今回はその遠征記を掲載する機会をいただき、誠に光栄に思います。チェスの内容を中心に、大会の様子も想像ができるような文章にできればと思っていますので、お楽しみいただければ幸いです。

London Chess Classic

正式にはThe 2025 XTX Markets London Chess Classicと言う名前のようにです。個人的にはエリートレベルでのラウンドロビンの印象が

強いイベントでしたが、同時並行でオープントーナメントも開催されています。

今回の会場はなんと、サッカーのチーム・アーセナルのホームスタジアムでした。この開催地を知った時はグラウンドの上でチェスをするという謎光景を想像していましたが、実際は建物内のバーのような場所が会場でした。

スタジアムはグラウンドを囲むように観客席が下から奥の方は高い位置まで広がっており、さらにその外周を囲むように建物があります。その建物の中もバーになっていて、おそらく試合中も窓や、上部に設置されているテレビから、ビールと試合を同時に楽しむようになっているんだと思いま

す。そんな1コーナーをチェスの大会用に少し模様替えしたものが今回の会場になっていました。



1Rの相手は、インド出身で現在ロンドンに住んでいるという少年でした。上図は印象に残ったポジションです。黒が14...g5としたところで、白はキングサイドのアタ





ックを見せられています。また黒の陣地には弱点がありません。c6がフックですが、15.b5はそのあと bxc6 bxc6となった後ははっきりしませんし、のちのちNe6-c5の筋も与えてしまいます。

やりたいのは15.Ra1でaファイルを奪い返す手ですが、15...Rxa1 16.Qxa1となったとき、Qa5などの狙い筋はできるもののクイーンがキングサイドを離れてしまい、...f5-f4などで攻められた時に不安が残ります。

ここは手が非常に難しく、実戦では30分以上を費やすことになってしまいましたが、これは自分基準では大きな時間配分ミスでした。

実戦は**15.Re1?! Qe8? 16.Na4**と進みました。15.Re1はf5-f4に備えた手ですが、e6のナイトがc8ビショップの利きも遮ってしまっているこの形では、黒としては、すぐにf5-f4としてしまうのではなくg5-g4、Ne6-Ng5として力を溜めるのが良いようです。15.Re1はこの観点で行くと、今述べた黒のプランにはあまり有効とはいえないさそうです。

しかし、黒の15...Qe8が疑問でした。Qe8-h5の筋を狙って自然なようですが、これによってb6のマスが弱点になり、16.Na4が非常に効果的な手になりました。Nb6と入ってc8のビショップを除去してしまえば白のキングサイドは当面安泰です。以降は無理な攻めをいなし勝つことができました。

対局後に振り返りましたが、白番15手目はエンジンが手元にある状態でも何をすべきか難しいポジションです。15.Na4!?!としてしまうのも一案でした。クイーンがd8にいる現状ではb6はカバーされていますが、c4-c5!?!としてb6マスを強奪してしまおうという構想です。白のクイーンサイドでの動きはb4-b5ブレイクとRb1-Ra1でのaファイル奪還が一般的ですが、b6マスを（無理やり）狙ったこのような動きもあるのですね。

2Rは手痛い逆転負け、3Rはロングゲームで勝ちました。そして4RではイングランドのグランドマスターGashiと対戦しました。白番のGashiがイングリッシュオープニングを選択し、私が以前からやってみてきたシャープな定跡になりました。準備は外れましたが、記憶を頼りに進めます。

1.c4 c5 2.Nf3 Nf6 3.Nc3 d5 4.cxd5 Nxd5 5.e4 Nb4 6.Bc4 Nd3+ 7.Ke2 Nf4+ 8.Kf1 Ne6 9.d3 g6 10.h4 h5 11.Be3 Bg7 12.Ng5 Nc6



すでに前例はほとんどありませんが、孤立ダブルeポーンを作ってもfファイルを開けば代償があるとするのがこのラインの特徴の1つです。さらにcポーンが落ちますが、d4マスとd3のバックワードポーンで代償になります。

13.Nxe6 Bxe6 14.Bxe6 fxe6 15.Bxc5 0-0 16.Rh3 Bd4 17.Bxd4 Qxd4 18.Qd2 Ne5 19.Kg1 Ng4 20.Rf1



e5, d4, g4といったマスを使えて気分が良い手が続きますが、1ポーンダウンで、かつ白も全てのピースを一応使えているので、黒良しとまではいえません。もう少し慎重になるべきだったように思います。

20...Rf7 21.Nd1 Raf8 22.Qc3 Qb6 23.d4 e5 24.Qc5 exd4 25.Qxb6 axb6 26.Rb3 Rf6 27.Rb5





次はfファイルに重ねて悪からうはずがないだろうというのが安直でした。21...Raf8は、対して22.Ne3は効かない(22...Rxf2)ことだけ確認して早く指してしまいましたが、21.Nd1によってc3を開きQd2-c3が生じていることを完全に見落としていました。

続いて22...Qb6も疑問で、d3-d4を防いだつもりが本譜の24.Qc5を見落としてました。ポーンこそ取り返したものの今度はb6ポーンが弱点になってしまい、dポーン、gポーンなども落ちやすくはっきり悪くなってしまいました。孤立ダブルポーンを解消したこと自体も決してプラスとはいえません。もともとeファイルは閉じていたのでe6もe7も簡単には狙いにくいという意味でそこまで弱くなかったところ、黒のポーンがd4, e5と並ぶ形は、b5マスに白が使えるようになったこともありe5が狙われやすくなっています。一般にも、センターに孤立ダブルポーンがあった場合、ダブルポーンが悪いというより孤立ポーンであることにより狙われやすくなると問題になるといえるかもしれません。23...Qd6が勝り、24.d4 Rd8でよりスムーズに

取り返せます。また、黒の21手目はQd2-c3を防ぐ21...Rc8が正確でした。

働きの強いd4クイーンに働きかける21.Qc3も、成立したらゲームオーバーになりうる22.d4もどちらも白にとっては自然な手で、読みの本線になるべきラインです。しかし、21手目まで黒だけがアクティブな手を続けていたこともあり、黒としては「こちらがアクティブにf2を狙っているのだから震えて受け続けてほしい」とでもいうような気持ちがあり、白からの反撃を軽視してしまいました。

21手目の段階で、確かに読みすぎるより自然な手を素早く選ぶこと自体は悪いことではないと思います。しかし、当然白も隙あらばアクティビティを取り戻そうとしています。21.Nd1の狙い、あるいはそのポジション毎における白の狙いを1手だけでも考えてQd2-c3の可能性に気づくことができているれば、21...Rc8を選べたかもしれませんし、結果21...Raf8を選んだとしても、より冷静に22.Qc3に対処することができたはずで、1手の読みなので、そこまで時間もかかりません。

この後はお互いに間違いもありましたが、最後は大差で負けてしまいました。1手ごとに相手の強い狙いを見逃していないか、確認することが大事でした。

First Saturday

2大会目は、歴史のあるハンガリーのノームトーナメントの、First Saturdayに出場しました。R1は黒番ながら満足なオープニングで早めのドローになりましたが、R2では後味の悪い敗北を喫し、R3は劣勢をなんとか耐えて1.0pt/3Rとなりました。ここではR4を紹介させていただきます。このラウンドは、ザンビアからのプレーヤーとの対戦でした。



マロツィーバインドの形では、Qd8-a5-h5として黒からクイーン交換を迫るアイディアがあります。今黒が**17...Qa5-g5**としてNf6-h5-f4のような筋を見せたところですが、少し不正確だったようです。

ここでは18.e5!?も有力だったようです。白有利なマロツィーの構造を崩してしまうのは実戦的ではありませんが、以下18...dxe5 19.Bxe5となると、黒からd4マスにアクセスする手段がなく次のQd1-d4が受かりません。急所のa1-h8ダイアゴナルを叩くだけ叩くチャンスというわけです。もちろんそれが決定打にはなりませんが、その過程でアクティビティを得た





り、新たな弱点を作れるかもしれませんが。実戦では**18.Kh1 Rfc8**となつて次の図です。



よくわからず、gファイルやg1-a7ダイアゴナルを避けて**18.Kh1**としました。冴えない手ですが、潜在的なタクティクスを避けて何かしら指すことも必要です。黒の自然な**18...Rfc8**に対して白はキングサイドでもスペースをとって行きたいところですが、現状では黒のクイーンに威張られてしまっています。しかし、ここは構わず**19.f4!** がありました。**19...Qxf4 20.Rf1 Qh4 21.Qf3** となると、この時**18...Rfc8**によってf7の守りが外れていることで**19.f4**が成立したことがわかります。**21.Qf3**以下は、**21...e5 22.Bf2 Qf4 23.Qe2**が1例で、黒のクイーンが狭くd5のアクセスもあるので白優勢でしょう。戻って**19.f4**には**19...Qh5**などとすると思いますが、クイーンを避けておけば白満足です。

実戦では**19.Rf1**としてf2-f4を準備しましたが、**19...Nh5**とされ防がれ、ルークを何回も動かした割に何も出来ず悲しい気持ちになりました。**20.Bxg7 Kxg7 21.Ne2**としましたが、**21...Nf4 22.Nxf4 Qxf4**と

なるといよいよスペースによるアドバンテージが消え、...b7-b5も入りそうで白のアドバンテージが吹き飛んだのは明らかになってしまいます。ただ、手の流れが悪くここではドローでも良いかと弱気になっていました。しかし実戦では、黒は**21...Qe5**としてナイトを残してきました。



e4ポーンをどう守るかですが、ここは**22.Re1**で自然に守ることが

出来ました。**22...Qxe4**には**23.Nd4**ですし、そうでなくても次に**Ne2-d4-f3**などとクイーンを追って体勢を立て直せます。

実戦では**22.Qd3**としたのですが、指した瞬間**22...d5**を見逃したことに気づき、血の気が引きました。c1で交換するとf4の守りが外れ、Nf4がテンポで入ってしまいます。マロツィー/ヘッジホッグではb5ブレイクとd5ブレイクだけを常に気にしなければいけないのですが、f4やe4のことを考えているうちに忘れてしまいました。

実戦では運良く黒も見逃し、**22...Nf6 23.Nd4 Qxe4 24.Qxe4 Nxe4 25.Nxc6 Rxc6**とバランスの取れたエンドゲームに。以下**26.Rc2 Rb6 27.Rb1**に**27...a5**がミスで、**28.b4**でbファイルを開くことができ、以降は上手く勝つことができました。





続くR5ではとても上手く指すことができ、GMに勝利。R6もGM戦で、こちらは内容は良くなかったのですが運良く勝つことができました。この3連勝が大きく、結果的に5.5pt/9Rで自身2つ目のIMノームを満たすことが出来ました。

Forintos Győző Memorial

3大会目は、Forintos Győző Memorialという大会でした。こちらもブタペストの大会ですが、ハンガリーのチェス界に多大な貢献をされ2018年にお亡くなりになったForintos Győző氏のメモリアル大会で、亡くなったGyőző氏の奥様はじめご家族もいらしてました。

開会式では生前のGyőző氏と親交のあった方々がスピーチをしており、いろいろと興味深いお話を伺うことができました。また参加賞としてGyőző氏の絵の彫られたメダルを頂くなど、故人のエピソードを現在のプレイヤーの記憶にも残すような素晴らしい主催だったと思います。

また、実はGyőző氏とForintosご一家は1990年代に7年間名古屋に住んでいらしたようです。ご子息の方は日本語も大変ご堪能で、開会式前に日本語で話しかけていただき大変驚きました。

5Rでは先ほど紹介したゲームの相手の、ザンビアのプレイヤーと再戦になりました。



ロツソリモから上図になりました。ここは14.Bh6が、わかりやすかったと思います。基本に忠実にフィアンケットビショップを削る手ですが、黒のポーンが黒マスに多いこの形では白の黒マスビショップの働きが強力に制限されるので、どこかで必ず必要になってくる手です。それならば、...f7-f6(f5)が入って...Qc7xg7と取り返されたりしないこの段階で実行してしまうのが一番良いでしょう。もちろん今すぐやる必要はありませんが、やらない理由もなさそうです。実戦では**14.Nh2 Nh5 15.Ne2 f5**と進みました。



f2-f4を狙う白に対して、黒からf7-f5を敢行したところで白の対処

が重要な局面です。16.f3はありますが、16...f4 17.Bf2となるとやはり白の黒マスビショップの展望が弱いです。根本のb6を狙えない形で、c3-d4も相手の強いところにぶつける上に白マスを弱めすぎて上手くいかなさそうです。

ということでここでも16.Bh6が良く、16...f4 17.Bxg7 Qxg7 18.b4としてクイーンサイドで有利に戦えます。KIDのような構造でf5を放置してf5-f4とされるとイマイチなことが多いのですが、ここではすぐにブレイクできることが大きいようです。

また、16.exf5 gxf5を入れてから17.Bh6とするのも有力で、17...f4 18.Bxg7 Qxg7 19.Kh1と進み、次にNe2-c3-e4が狙いとなります。これは考えていたのですが、g2をRg1で受け止めることになるのを嫌ってしまいました。しかし、このRg1の形でキングサイドは完全に受け止められており、そうであればセンターとクイーンサイドで有利に戦えそうな白が指しやすそうです。

戻って上図では、16.exf5 gxf5に17.Ng3も特に覚えておきたい対処法です。キング周りがやや薄い黒はfファイルを開きにくいですが、17...Nf6なら 18.Bg5として、次にNh2-f3+Re1、あるいはf2-f4などを狙える形で、キングサイドでのイニシアチブは完全に取れていることがわかります。

実戦は**16.exf5 gxf5 17.f4 e4**と進みました。





16.exf5 gxf5 17.f4はf7-f5に対して部分的にはよくある対応ですが、ここでは最悪でした。当然の17...e4のあと、a1-h8ダイアゴナルが開くことになるのですが、このダイアゴナルを白が使える見込みがこのポジションでは全くなく、逆に黒が使う手助けをしてしまっています。生き活きてきた黒のg7ビショップとは対照的に、白のe3ビショップが完全にお荷物です。

実戦の進行は18.Rae1 Ba6となりました。黒のネックだったクイーンサイドのビショップやルークまで味よく使われ、非常に厳しいです。戻って、上図では18.dxe4 Rxe4に19.Rf3とするのが好手でした。dファイルを開いておき、Ne2-g3やNh2-f1を見せた非常に粘りある手で、これも覚えておきたい手です。以降はチャンスなく負けてしまいました。

続いて6Rはハンガリーの少年が相手でした。これで3度目の対戦になります。



フレンチの1変化で、クイーンも交換となり落ち着いたところです。白に妥協があり、ここではイコールです。少し気になって調べてみたのですが、黒の手26通りのうち、手元のStockfishだと16通りが0.00でした。

19...Nc6 20.Ng5



f7に当てられたところですが、実戦では20...Rd7としてしまい、21.Rh1からg3-g4を狙われて一気に敗勢になってしまいました。

20...Rdf8が必要で、Kc8-d7からf7-f6を見せて問題ない形勢でした。20...Rd7とすると、d7マスも埋まってしまいf7-f6がすごく実現し辛くなってしまっています。

19手目のポジションにおいても、黒番の手の自由度が非常に広いのは黒のRdf8~f6のプランを白が防ぐ手段がないからでした。f8に回すルークは常にd8（クイーンサイドの）のルークがよく、h8のルークはg4ブレイクの牽制に重要です。f7-f6ができて初めて黒は互角化成功と一息つくことができるのだということを学びました。

他のラウンドでも手痛い逆転負けなどがあり、この大会では結果が奮いませんでした。

遠征を終えて

今回紹介した3大会を通してのレーティング収支は-4でした。悔しい結果ではありますが、その中でIMノームを1つ獲得できたのは本当に良かったです。できるだけ多くの事を学んで、これからの自分のチェスに活かしていきたいと思っています。





2025 XTX Markets London Chess Classic Super Rapidplay

Elizabeth Ivanov

The final tournament in the 2025 London Chess Classic was the Super Rapidplay which took place in Hammersmith, London from December 6th to 7th. The concept of an open rapidplay had attracted many chess players, with over 300 entrants (25 of the entrants being Grandmasters and respectively almost 30 International Masters). My rating of 1727 had put me in a starting rank of 226.

During the Chess Classic, there were many formats which included a Fide Open for norm seekers that took place earlier in the week during the evenings (for over 2100s), as well as a separate tournament only for U2100. I had chosen only to participate in the rapidplay as I had played Kinosaki Open a week prior and was looking forward to seeing the Elite Masters event that Nodirbek Abdusattorov had won with 7.5/9 which was available as a spectator event in Emirates Stadium (home of Arsenal football club) in North London. The Super Rapidplay was hosted at a venue I was already familiar with,

as the organisers had used the venue for the World Rapid and Blitz Team Championship in June 2025. This did not make it any easier to get to the venue as many chess players who may have competency on a chess board were struggling to leave Hammersmith station to a venue only allegedly a short walk away just as the round 1 clocks were starting. The time control was 15min+10sec and with a no devices in the playing hall rule, this meant most players left their phones in the cloakroom and would not always have time to access it again before the next game (300 players and 1 cloakroom means prep might not be possible!)

My round 1 was successful, having beaten a player Sourav Bhattacharjee with a Fide rating of 2167 as black. I had taken a pawn during a messy exchange and had played more defensive than I usually would which led to him pushing more for a win that wasn't quite there and had left his position so open that he resigned minutes later.

My second round pairing was against FM Kenneth Hobson. I was playing white for R2 and FM Hobson had grinded out the

position which could have been a comfortable and familiar Ruy Lopez to a middlegame where almost all pieces were still on the board, pawns were waiting to be captured and suddenly I had allowed a gap for him to plant an outpost knight and my position had crumbled from there and lost. The rest of the matches were smooth and had finished the tournament on 4.5/10, with my final rank being 200.

Hopefully this could be an annual tournament in the London Chess Classic programme.





27th Asian Youth Chess Championships 2025

菊池 薫

2025年11月20日から30日にかけて、タイ・バンコクでAsian Youth Chess Championships 2025 が開催されました。U18・U16・U14・U12・U10・U8のオープンと女子の12カテゴリーに分かれ、ラピッド7ラウンド、スタンダード9ラウンド、ブリッツ9ラウンドが行われました。33の国と地域から約700名の選手が集まり、日本からはU16にロールストーン・ダニエル選

手、G14に新居乃那選手、U12に野田龍選手と新居冬馬選手、U10に秋山海璃選手、G10に菊池紗弥選手、U8に堀理仁選手が参加しました。

大会会場および公式ホテルはMRTの Lat Phrao 駅 近くのThe Bazaar Hotel Bangkokで、バンコク中心街から少し離れた落ち着いたエリアにありました。大会はシリキット王太后崩御の服喪期間中で、白黒や落ち着いた色の服を着た方が多く見受けられました。大会前日の到着時は静かな印象でしたが、受付が始まると各国選手や関係者が続々と到着し、一気に賑やかになりました。





日本チーム最年少の堀君は、フライト遅延で深夜到着となったうえ、公式ホテルが満室のため急遽別のホテルへ移動するハプニングがありました。翌日から公式ホテルに宿泊できましたが、そんな状況でも初日のラピッドから全試合に出場していました。

試合会場の15階ホールへはエレベーターと非常階段から入場できましたが、エレベーターは混雑しやすく、試合前は時間に余裕を持って行動する必要がありました。

セキュリティチェックでは行列ができることも多く、大会後半には保護者の入場が制限され、円滑な試合進行が図られました。

日本チームでは、ラウンドの合間に年齢の近い選手同士と一緒に遊ぶ姿がよく見られました。スタンダードの試合が続くなかでも、食事やゲームを共にする時間が良い気分転換になっていたようです。大会後半、バグハウスで楽しそうに遊んでいた姿が印象的でした。

娘の紗弥は3回目の海外大会参加となり、他国の選手との交流も増えてきました。過去の大会で対戦した選手や、今年引越したインドネシアで知り合った選手と励まし合えたことは緊張感のある大会中にほっとする時間でした。

大会全体を通して感じたのは、アジアのレベルの高さでした。海外大会への参加は、選手にとって貴重な成長の機会となるのではないかと思います。これからも、より多くの選手に積極的に挑戦してほしいと願います。



平塚義啓さん

3つの目標

ひらつか・よしひろ

1978年生まれ。チェスを本格的に始めたのは40歳ころ。日本チェス連盟には2021年に加入。2024年7月にNational アービター(NA)、2025年10月にFIDE アービター(FA)資格を取得した。また、2026年2月には2025年度ベストアービター賞を受賞した。



このたびはFIDE アービター(FA)資格取得、おめでとうございます。

<https://japanchess.org/2025/11/accreditation-notification-of-new-fide-arbiter-5-2/>

[Hiratsuka, Yoshihiro FIDE Profile](#)
はじめに日常生活について少しお聞かせください。どちらにお住まいで、お仕事は？

東京都国分寺市に単身赴任で一人暮らししております。家族は宮城県仙台市に住んでいます。仕事は武蔵野市にあります横河電機株式会社に勤めております。

普段はどちらでチェスを対局されていらっしゃるのでしょうか？

会社のメンバーで作ったチェスクラブで定時後に指しています。2021年に海外駐在から帰任した際は千葉に住んでいたため、千葉チェスクラブの例会にお邪魔させて

いただいております。このクラブで大変よくしていただいたので、今でもチェスを続けていられると思っております。2023年に本社勤務となり、外国人社員も多い部署だったこともあり社内チェスクラブを立ちあげて楽しんでいます。

NAに続いてFAになられました。この資格を取ろうと思われたのはなぜですか？

海外駐在から帰任後に日本で公式戦へ参加するようになり、そこで初めてアービターという存在を知りました。「チェスにも審判がいるんだ」と驚いたのを覚えています。以前、フロアボールというスポーツで国内審判の資格(国内A級)を持っていたほか、サッカーでも宮城県4級審判員の資格を取得していたため、「チェスにも審判

があるなら挑戦してみたい」と自然に思うようになりました。そんななか、ちょうどNA制度が始まりました。「これだ!」と思い、すぐに申し込みました。

私はチェスを始めたのが遅く、選手としてのレベルは高くありませんが、審判なら別です。フロアボールでは日本リーグや全日本選手権でレフェリーを務めました。サッカーでは公式戦での経験はないものの、新しい制度のもと横一線で競うのであれば、自分にも貢献できる部分があるのではないかと思います。挑戦しました。幸いにも多くの大会に呼んでいただき、NAとして経験を積むことができました。

その年の9月に真鍋さんから「FAセミナーの枠がありますが受けてみませんか?」と連絡をいただき、これも即返信した記憶があり

ます。「落ちたらそのとき考える」という性格なので、二度と来ないかもしれない機会は迷わず掴みます。FAになりたいというより、“せっかくだいた機会だから前向きに挑戦しよう”という気持ちでスタートしました。

アービターの仕事で最もやりがいを感じたのはどんなときですか？

大会終了後、選手の皆さんから感謝のお言葉をいただける瞬間です。真剣勝負の後でお疲れのなか、わざわざ声をかけてくださる選手の皆さんには頭が下がります。運営として至らない点があったかもしれませんが、それでもいただく言葉に本当に励まされます。

アービターの仕事でたいへんだなと感じたのはどんなときですか？

求められる品質が非常に高いと

ころです。どのスポーツでも選手のミスはある程度許容されますが、審判のミスは許されにくく、常に“パーフェクト”が求められているように感じます。

また、結果発表は誤った情報を出すと訂正が必要になり、選手にも失礼ですので、最終確認には大きなプレッシャーがあります。選手の時間と努力を預かっているという意識を強く持つようにしています。

アービターの仕事で最も大切にしていることは何ですか？

最も大切にしているのは Fairness（公平性）です。どんな選手にも同じ基準で接し、どんな局面でもブレない判断をすることがアービターの基本だと考えています。また、Attitude（態度）も非常に重要です。アービターの立ち居振る舞いは大会全体の雰囲気

に影響しますし、選手の安心感にもつながると考えています。

アービターは対局後に選手のスコアシートへサインをしますが、もしそれが選手にとって“人生最後の一局”だったとしたら、そのスコアシートにサインする者として恥ずかしくない態度でありたいと常に思っています。選手の大切な時間に寄り添う存在として、誠実で落ち着いたふるまいを心がけることも大切にしています。

余談ですが、StrengthsFinderでも最初に「公平性」が来ました（笑）。てんびん座ですし、私は根っからの審判なのかもしれませんね。

これまでアービターを務めた大会で特に印象に残っている大会を教えてください。

全日本女子チェス選手権2024です。詳しくは言えませんが、アービターとして大きなミスジャッジ（誤審）を起こしてしまいました。気の緩みというか、「これくらいいいだろう」という軽い考えが引き起こしたものです。その誤審は今でも強く覚えていて、同じミスをしないように戒めとして今後も忘れないと思います。

漏れ聞くところでは、大会で使う連盟のクロックが不具合を起こすと、平塚さんが修理していらっしやるのか。本当ですか？

壊れたおもちゃを分解するのは男の子の性（さが）ですよ。連盟の許可をもらって壊れたクロックを数台持ち帰り、ダメもとで分解してみたところ構造が単純だと



レベルアップチェス大会

ということがわかり、試行錯誤しているうちに直し方を確立してしまいました。もちろんどんな症状でも直せるというわけではありませんが、SNSにも投稿できますしネタとして修理しています。これまで10数台修理したと思います。お手持ちのチェスクロックで動作が怪しいものがありましたら、遠慮なくご連絡ください。

余暇時間に、チェス以外で何かしらいらっしゃることがありますか？

筋トレしています。もともとはゴルフのための補助トレーニングでジムに通い始めたのですが、筋トレのほうが楽しくなっちゃって、いつの間にか筋トレがメインになってしまいました。ベンチプレスとスクワットが好きな種目です。チェス界もフィットネス勢が何人かいらっしゃいますので、時折話が盛り上がりますね。

歴代の世界チャンピオンの中で一番好きな棋士は誰ですか？その理由は？

お恥ずかしい話ですが、チェスプレーヤーをよく知らないのです。日本に縁（ゆかり）のある選手を追いかけたいと思っています。

今年これからのチェスの目標を教えてください。

選手、アービター、クラブ代表という3つの立場であります。

選手としては、やはり全日本チェス選手権に出場したいです。今年の大会でDCAを担当しました。あの勝負の空間で選手として参加



したいという思いが強くなり、「いつかは全日本」と考えています。

アービターとしては、年間アービター賞を獲りたいです。選手に信頼されることが第一ですが、アービターとして国内トップクラスを目指したいという気持ちもあります。その継続がチェス界への貢献になると考えており、その証として受賞を目標にしています。※

クラブ代表としては、昨年立ち上げた企業チェスチームをより大きくしたいです。昨年、日本初の企業チームとして全日本チームチェス選手権に参加し、今年は2チームを送り出すことができました。今後は会社で正式に同好会化し、日本チェス連盟公認クラブとして登録することを目指しています。

ありがとうございました。今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

こちらこそありがとうございました。私がこうやって順調にFAになれたのも、苦勞して道を作ってくださった先輩アービターと日本チェス連盟のおかげです。タイミングなどの巡りあわせもあり、私はその道を行くことができました。本当に感謝しています。これからも皆さんに信頼されるアービターになれるよう励みたいと思います。

※本インタビューは2025年11月に実施されたものです。その後、2026年2月に2025年度ベストアービター賞を受賞しました。

Interview Next Generation

ユースプレイヤー
インタビュー

このコーナーではこれからの日本チェス界を盛り上げる若手プレイヤーをご紹介します。今回インタビューを引き受けてくれたのは森谷翔さん。日本国内外でたくさんの大会に出場されています。昨年のチーム選手権で優勝したThe Vibrantsの2番ボードとして重要なポイントを勝ち取ってチームに大貢献したり、最近では年末年始にストックホルムで開催されたRilton CupでGM相手にドローを獲得したりと、着々と力をつけているプレイヤーの一人です。

Interviewer



Kanako
Kinoshita

森谷翔さん(14)



Data

森谷翔 (もりたに・しょう)
2011年11月11日生まれ
趣味：鉄道
好きな教科：化学、数学
将来の夢：化学系研究者、チェスプレイヤー
好きな食べ物：クレープ

チェスとの出会いは？

僕はチェスを6歳の時に指し始めました。僕のお父さんの知り合いからチェスセットを貰い、ときどき遊んでいました。その後、ニューヨークに引っ越し、公立の学校のチェスクラブに入り、本格的に指し始めました。

チェスが好きな理由は？

チェスが好きな理由は、自分の実力で自分の運命を決められるからです。個人的にはチェスには運要素が少ないと思いますし、自分と相手しかいないので、試合の結果は自分自身のものになります。だからこそ、勝ったときの喜びは格別ですし、負けたときも誰かのせいにするのではなく、「次はもっと強くなろう」と前向きに受け止めることができます。

チェスの勉強法は？

僕はコーチから習う他に本を読んで勉強しています。ニューヨークに住んでいた時のコーチが様々な本を勧めてくれて本を読む習慣が出来ていたもので、今も海外大会に行ったときに買ったり、ネットから取り寄せています。本はネットのビデオコースなどと比べて情報量が多いのに加えて、より内容が記憶に残ります。それにパズルが多数載っている本もあり、Calculation Trainingに役立ちます。僕が今まで読んできた本の中で特に勉強になった本を紹介します。

- 100 Endgames You Must Know
Jesus De La Villa (著)
- How to Reassess Your Chess
Jeremy Silman (著)
- Positional Decision Making in Chess
Boris Gelfand (著)
- Dynamic Decision Making in Chess
Boris Gelfand (著)



▲全日本チーム選手権2025では優勝チーム「The Vibrants」の2番ボードを務めた



▲ Greater New York Scholastic Chess Championships 2020で第13代世界チャンピオンのGM Garry Kasparovと、当時8歳

憧れのプレイヤーは？

僕が一番好きなチェスプレイヤーは第12代ワールドチェスチャンピオンのGM Anatoly Karpovさんです。Karpovさんの相手の動きや計画を制限したり、少しずつ自分の駒の位置を改善して弱点を攻めていくようなポジショナルなスタイルが大好きで、その様なスタイルを自分のチェスに取り入れようとしています。

特に1974年のKarpov-Unzickerは僕が一番気に入っている試合です。ルイ・ロペスから始まった後に24.Ba7!!でaファイルを支配し、ルークをそこに重ねたりして駒の位置を改善し、最後はキングサイドの白を攻め込んで勝利を掴んだ流れはものすごく綺麗で何回見ても感動します。

Karpov, Anatoly

Unzicker, Wolfgang

Nice Olympiad Final-A 1974

Ruy Lopez C98

1. e4 e5 2. Nf3 Nc6 3. Bb5 a6 4. Ba4 Nf6 5. O-O Be7 6. Re1 b5 7. Bb3 d6 8. c3 O-O 9. h3 Na5 10. Bc2 c5



▲ Sparkassen Chess Trophy 2025でゲーム解説者をしていたGM Artur Yusupovと

11. d4 Qc7 12. Nbd2 Nc6 13. d5 Nd8 14. a4 Rb8 15. axb5 axb5 16. b4 Nb7 17. Nf1 Bd7 18. Be3 Ra8 19. Qd2 Rfc8 20. Bd3 g6 21. Ng3 Bf8 22. Ra2 c4 23. Bb1 Qd8 24. Ba7!!



24...Ne8 25. Bc2 Nc7 26. Rea1

Qe7 27. Bb1 Be8 28. Ne2 Nd8 29. Nh2 Bg7 30. f4 f6 31. f5 g5 32. Bc2 Bf7 33. Ng3 Nb7 34. Bd1 h6 35. Bh5 Qe8 36. Qd1 Nd8 37. Ra3 Kf8 38. R1a2 Kg8 39. Ng4 Kf8 40. Ne3 Kg8 41. Bxf7+ Nxf7 42. Qh5 Nd8 43. Qg6 Kf8 44. Nh5 1-0

今後の目標は？

今後の自分の目標は、CM、FM、IMとFIDEタイトルを取得していくことや、全日本チェス選手権を優勝して日本代表になることです。今はまだまだなので、これから一步一步成長していきたいです。

チェス大会 【文】上杉賀子

in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

息子（上杉 晋作・2007 年高校 1 年生で全日本史上最年少チャンピオン）が 2009 年チェス国籍日本の最年少 FIDE マスターとなり 2010 年全米高校選手権で優勝するまで（さらにアメリカの Senior Master の資格となる USCF レート 2400 の壁を超えるまで）参戦した、アメリカの全ての公式戦、約 180 大会の様子を順番に載せてみようと思います。渡米から 1 年半、紆余曲折を経て現地生活に馴染んできた頃、小学校のチェスクラブの案内を見かけて入部。これが始まりでした。その一年後、いよいよトーナメントプレーヤーとして出陣です。

NO.87 全米高校チェス選手権

2007 年 4 月 13 日～15 日
晋作 (15 歳) の結果: 5.5P/7Games
レーティング 2201 → 2212

Kansas-city, Missouri で行われた全米高校チェス選手権で、9 年生ながら 8 位入賞しました。（この 3 年後、12 年生で、見事全米高校チャンピオンになりました。）

FOXWOODS から帰ってきて急に決めました。旅行のアレンジを 2 日ほどでしたので、飛行機、ホテル、先生への欠席のアレンジで死にそうな 2 日間でした。これからは「Tour Conductor ○○」と呼んでください。ホテルはもちろん売り切れですが別ホテルをおさえて、ぎりぎり Last Minute で前日深夜にあきらめずに会場ホテルに聞くと、キャンセルがでたのか偶然部屋があいてラッキーでした。Never Give Up です。料金は Chess Rate ではないので高いですがかえって高層エレベーターが使える部屋になり（35 階です。28 階以上が高層エレベーター）ほとんどの選手たちがエレベーターが混んでいて困るという問題をクリアできたのは何よりでした。「13 日金曜日」の朝 3 時半過ぎに家を出てきました。荷作りなどもあってほとんど徹夜できま

した。晋作の登場は皆にサプライズで、会場に無事着くと特に同じ州からきている軍団たちから大歓迎をうけていました。連れてきてやってよかったと思いました。今大会には IM (International Master) の 12 年生も 2 人いて、30 位以内入賞は毎年上級生がほとんどです。かなり厳しいですが、たくさん知り合いがいて、またこういう全米選手権でしか会えない友達もいて、彼らに久しぶりに会えて嬉しそうでした。

2007 年 4 月 14 日

昨日の初戦、2 戦目は勝ちました。初戦は 8 秒残りでした。普通の Open 戦ではまず問題ない相手だったと思いますが、Scholastic nationals は全然雰囲気がちがうので大変です。レートごとにセクションが分かれています。晋作はもちろん Championship 部門で 375 人中レートは「13 位登録（13 日の金曜日にでてきて最初の Board が 13 で、なんだか。。。）9 年生ではトップ登録です。そして今日の 3 戦目は何人かのアップセットがあったので 9 番ボードまであがってきました。

日本人プレーヤー母子が Kansas からきていて、ほぼ地元

なのでいろいろ教えていただいて御世話になっています。昨日の夕食はスカイウォークでつながっているショッピングセンター内の日本食につれてもらいました。帰りに翌朝の分のおにぎりを頼んでおくことを教えてもらい、そのおにぎりのおかげで今朝はぎりぎりまで寝られて助かりました。息子さんは 8 年生で出場するので大変ですが、その州で有名です。

FM Sunil (GM HIKARU' s DAD) さんが某選手の付き添い兼 Scholastic の Council 兼 NY の Jewish School のコーチ等できています。これから Parent' s Friend' s tournament に出られます。私も元気なら出たかったところですが（???）かなりの寝不足（力不足はもちろんのこと）なので断念します。私のポイントと晋作のポイントあわせて別枠でトロフィーのチャンスとかありますが、晋作いわく、私の点数は加算されないから関係ない（つまり全敗するとのこと）。

出場者が高校生までの大会は観戦シャットアウトですが、今大会では観戦者は 50 人限定 1 回に入れます。昨日は、はじめは 15 分限定でした。免許証（身分証明

チェス大会 in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -



IM アレックス・レンダーマンとの対戦

書)をあずけて札をもらって中に入っていけます。昨晚2戦目のときに、それを頼んで中に入っていてみました。最後の1時間でもう10組ほどしか残っていなくて「延長」もできて試合終了まで40分くらい中にいました。選手はトイレもBall Room内に設けられたトイレにしかいけず、プレー中、会場外にでることは許されません。規則が厳しくなりました。

今朝も同じ州からきたトップグループと少しの時間でしたが始まる前に会場でBughouseしていました。こうして地元からのナショナルレベルが増えると精神的にもリラックスできていいですね。

3戦目は大丈夫だと思いますが4戦目あたりからきつくなってくでしょう。でも地元のチェスクラブに属していない晋作にとっては大会での実戦が「チェスクラブ」

の練習のようなものなので、またいい経験をしてくれたらいいと思います。12年生になったら上位のトロフィーもねらいたいところですが、今回は先輩方の胸を借りるつもりです。

と書いていると3戦目、無事に勝って戻ってきました。アクセレレイティドペアリングなのでこれはボーナスラウンドのようなものです。

4月15日

昨晚の4戦目、Board 8、2005年WA州の高校チャンプに勝ち。5戦目、Board 3、昨年の全米高校チャンプに死闘4時間引き分け。相手はアリゾナのチームできていてチームは今、暫定1位。去年はIM2人が率いるNYのチームに負けて2位。このAZとNYはメンバーのレベルが群を抜いてい

ます。

夜11時、晋作は残り23秒。晋作達の試合が最後だったのですごいギャラリーでした。でも晋作の東海岸組の友人たちがAZ軍団に負けずに周りをとりかこんでくれていて私も心強かったです。ドロポジションで両者とも打つ手が無いので晋作が何度かドロオフアしたにもかかわらず、相手は頑としてうけつけませんでした。2006年全米チャンプの意地ではいかなかったのでしょうか。晋作は粘って最後は向こうも1分を切ってきて引き分けました。(彼は結局9位となり、表彰式でも隣同士となりました。が、この2年後、彼は交通事故でなくなったというニュースにショックをうけました。)

アップセットが多いなか、そし

チェス大会 in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

て本当にタフな戦いのなか、晋作はがんばっています。友人達と試合前に雑談したり、ちょっとチェスをしたり、そういう時間がすこしでも試合前のプレッシャーをはねのけてくれているように思います。そういう友達がいる晋作は幸せだと思います。ありがたいです。第5戦終了後で4.5、残り2戦であと0.5とればタイブレークは高いので入賞トロフィーの可能性あります。上級生は最後の力を振り絞ってくるでしょうから厳しくなるとは思います。

ということで、入賞の可能性が出てきたので Award Ceremony を期待して15日早朝に、急遽その夜の便をキャンセルして帰りを16日朝の便に決めました。これは「賭け」でした。万が一入賞を逃せば学校側に月曜遅刻する理由をいえなくなってしまいます。その直後 pairing がサイトにできました。全勝はなしで4.5が16人。IM 同士は同じチームなのでやらないし、アリゾナ州もチームメートはお互いにやりません。そして必然的にペアリングが限定され、なんと今朝の第6戦、晋作はステージにあがり IM Alex Lenderman と対局することになってしまいました。Board 横に名前が貼られています。何枚も写真をとりました。ご存知の方もいるでしょうが彼はU16の「世界チャンピオン」でした。今は12年生です。

Lenderman と対戦、引き分け



第8位のトロフィーを持って友人と記念写真

できなくて負けてしまって、優勝の可能性が全くなくなったときはちょっと残念そうでした。Lenderman とは惜しかった（ような気がした）そうです。ドローできたところを最後ミスった（ような気がした）そうです。でもそれが力の差なのでしょう。なんといってもU16の世界チャンピオンですから。晋作に対して彼は30分しか使いませんでした。晋作は粘って粘ってそのポジションにもっていくのに1時間半以上、ついには残り時間はあと10分を切りました。いい経験でした。

第7戦は楽に勝てました。結果的に落としたのはIMにだけ、そして引き分けは前年のチャンプということで、タイブレークで5.5のなかでは最高で8位の大きなトロフィーをいただきました。9年生の national grade champ の意地で9年生トップの成績で終わりました。全米の上級生にも名前を

覚えてもらえたようです。

Award Ceremony で晋作の名前がよばれると同じ州から来た友人達が歓声をあげてくれてとても嬉しかったです。晋作は彼らの「(可愛い??) 弟」のような存在です。Lenderman とともに Co-Champ になった12年生が2007年の Sweet16 Winner UMBC の Full Scholarship をとった子です（晋作は2005のwinner）。晋作は彼に（だけ??）は負けたことがないので彼も晋作のことを認めてくれていて、とてもいい先輩です。彼も Lenderman とともに2005年の World Youth U16 代表です。

Award Ceremony の最中に火災報知器が作動し、全員が屋外で避難というハプニングがありました。結局何も無かったのでよかったです、どきっとします。

チェス大会 in アメリカ

- 全米高校チャンピオン/FIDE マスターへの軌跡 -

4月16日

昨夜、表彰式終了後、同じ州から大人数で参加してきた私立学校（その先生兼チェスコーチのもとで晋作はよくTDとして働いているので特に親しいです）がホテル廊下でのチームディナーに招待してくれました。お料理はケータリングでまかない、そのアレンジに感激しました。学校をあげて大会参加できるところがうらやましいです。その学校はチームできていますが、ほとんどは下のセクションで、その先生の息子さんはChampionship セクションでチームに入れません。それで彼、晋作、そして同じ州からの仲良し組もう2人の計4人を「チーム」のつもりで各ラウンドの結果を追ってしてくれました。この仲良し組で「チーム」が組めたら3位です。

晋作達は廊下に座り込んでバグハウスで夜11時まで部屋に帰ってきませんでした。

いつものようにタフな日々でしたが会場で一緒に苦しい時間も楽しい時間も共有していただいたKさん母子、そして応援していただいた方々のおかげでなんとかのりきることができました。ありがとうございました。

大会終了後、何件かお祝いメールをいただき、そのなかにFoxwoodsで一緒だったFM Ray Robson ママからのメールも入っていてびっくりしました。晋作いわく「僕の成績をTrackしていたのではなくてIM2人の成績を見てたまたま僕の名前を見つけたんでしょう。」なるほど！帰りの今朝の便は友達2人と一緒でした。ジェットコースターのよ

うに揺れました。帰ってきてすぐに授業に行き、そのままTrack & FieldのMeetで100、200、400と走り、帰宅は7時。長い1日でした。寝不足、大会疲れ、旅の疲れ、それに外は突風で寒くてタイムもぼろぼろでしたが、とにかく出席しないとクビになるので。これから晋作は宿題のmakeupなどで徹夜モードでしょうか？寝不足なので転寝をしてしまう可能性大です。そうなった場合、私は晋作を起こす役目をはたそうと思うので？私のほうもまだまだ寝るわけにはいきませんか？旅をすると洗濯物がどっさり、ため息です。VA TECHでおきた衝撃的な乱射事件のニュースを聞きながら後片付けをします。大学生を持つ親としてひとつではありません。



仲良し仲間とお決まりのバグハウスを楽しむ晋作

普段の練習を 本番と同じ駒、同じ盤で





モダン・スタントン 96mm ヘビー



プラスチック製
駒のみ

¥3,980



Yahoo!ショップ 
Amazon.co.jp 



オフィシャル・スタントン 95mm



木製
駒のみ

¥14,800





Yahoo!ショップ 
Amazon.co.jp 

トーナメント 51cm 57mm



ビニール製
盤のみ

¥2,680



Yahoo!ショップ 
Amazon.co.jp 

モダン・トーナメント 44cm ヘビー



プラスチック製
盤と駒のセット

¥5,680

Yahoo!ショップ 
Amazon.co.jp 

他にもたくさんのチェス用品を取り揃えております
チェス用品のご購入は



CHESS JAPAN
GAME AND ART

Yahoo!ショップ：<https://store.shopping.yahoo.co.jp/chessjapan/>

公式HP：<https://www.chessjapan.com/>

※価格は掲載時点のものです。



初めての相手と、気軽に指せる楽しみ

Chess Center UENO

入場料 **500円** 税込

営業
時間

木 17:00
▼
曜日 22:00

土 12:00
▼
曜日 17:00

日 12:00
▼
曜日 17:00

チケットご購入
(Peatix)

※最終入場は各営業日の終了30分前です。



チェスセンター上野

東京都台東区北上野2-11-3シルバーフラット101

Access :

東京メトロ日比谷線 入谷駅 徒歩8分
東京メトロ銀座線 稲荷町駅 徒歩9分
JR/東京メトロ 上野駅 徒歩11分

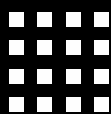
公式HP : [リンク](#)

お問い合わせ : info.chesscenterueno@gmail.com



1人でもOK

スタッフがお相手します！



各部最大16人

みんなで一緒に！



保護者の付き添いOK

未成年1人につき1人まで無料

所在地
(Google Map)



編集部

木下奏子 神田大吾
山内美加 真鍋浩
鈴木秀聡 桑田晋
森谷真理子 (順不同)

発行

一般社団法人 日本チェス連盟

本誌に掲載された写真、イラスト、記事、棋譜の解説等について、無断転載および無断配布を禁止します。著作権はそれぞれのクリエイターにあります。ご意見・ご感想などは japanchess.editor@gmail.com までお寄せください。